

「かに星雲」のX線調査

JAXA 大樹で放球実験

今年3基目

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は18日早朝、大樹航空宇宙実験場で今年3基目となる大気球の放球実験を行った。今回はX線天文分野の実験。約1000年前に大爆發した超新星の残骸（ざんが）いで、現在も地球の磁場の約1億倍の力を持つ天体「かに星雲」の謎に迫る。放球は

成功し、X線の検出器を搭載した観測機器が高度三千数メートル上昇した。X線の検出器は山形大と大阪大、理化学研究所、JAXAが共同研究している。今回の実験では、莫大（はくたい）なエネルギーを出す同星雲の硬X線（エネルギーの高いX線）領域で、特定の方向のみに振動する光（偏

光）の強さや向きを探る。偏光情報を取得できると、強い磁場を持った天体の構造やエネルギーの放射メカニズム、ブラックホールの性質も分かるようになるという。

JAXAは2006年、三陸大気球観測所（岩手県大船渡市）で同様の実験を行っている。大樹では初めてで、今回は感度を上げた検出器を製作した。



放球直前の準備風景。左のクレーンにつり下げられているのがX線検出器（18日午前3時55分ごろ）

上空で最大30万立方メートルまで膨張する大気球を使用。午前1時ごろから二十数人のスタッフが準備に当たり、同3時58分に放球した。午後1時現在まだ飛行中で、午後3時から同4時ごろに十勝沖近海に着水する予定。

（北雅貴）